

2025 年 3 月期決算電話会議説明および議事録

参考資料:2025 年 3 月期決算説明資料

[LinkClick.aspx](#)

(補足) PKG : パッケージ基板

HDI : マザーボード(High Density Interconnect)

■ご説明

2024年度実績および2025年度業績予想

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。



- ・2024年度は、前年度比で機能材料セグメントのMicroThin ™など主要製品の販売量が増加したことや、金属セグメントで為替の円安や金属価格が上回って推移したことおよびそれらに伴う在庫要因の好転等により、増収増益となった。売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高となり、特に金属セグメントの増益が大きく寄与している。
- ・2025年度は、2024年度比でMicroThin ™の販売量は増加を見込むが、金属セグメントで為替の円高や金属価格が下回って推移することおよびそれらに伴う在庫要因の悪化や、三井金属アクトの株式譲渡などにより減収減益となる見込み。
当期純利益は2024年度に計上した投資有価証券売却益の剥落と、三井金属アクトの株式譲渡に伴う特別損失計上などによる悪化を見込む。

(単位: 億円)

	実績			予想		
	2024 実績	2023 実績	増減 (24-23)	2025 今回予想	2024 実績	増減 (25-24)
売上高	7,123	6,467	656 10.2%	6,500	7,123	-623 -8.8%
営業利益	747	317	430 135.8%	420	747	-327 -43.8%
経常利益	764	445	319 71.7%	410	764	-354 -46.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	647	260	387 148.8%	140	647	-507 -78.3%

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

 三井金属

1

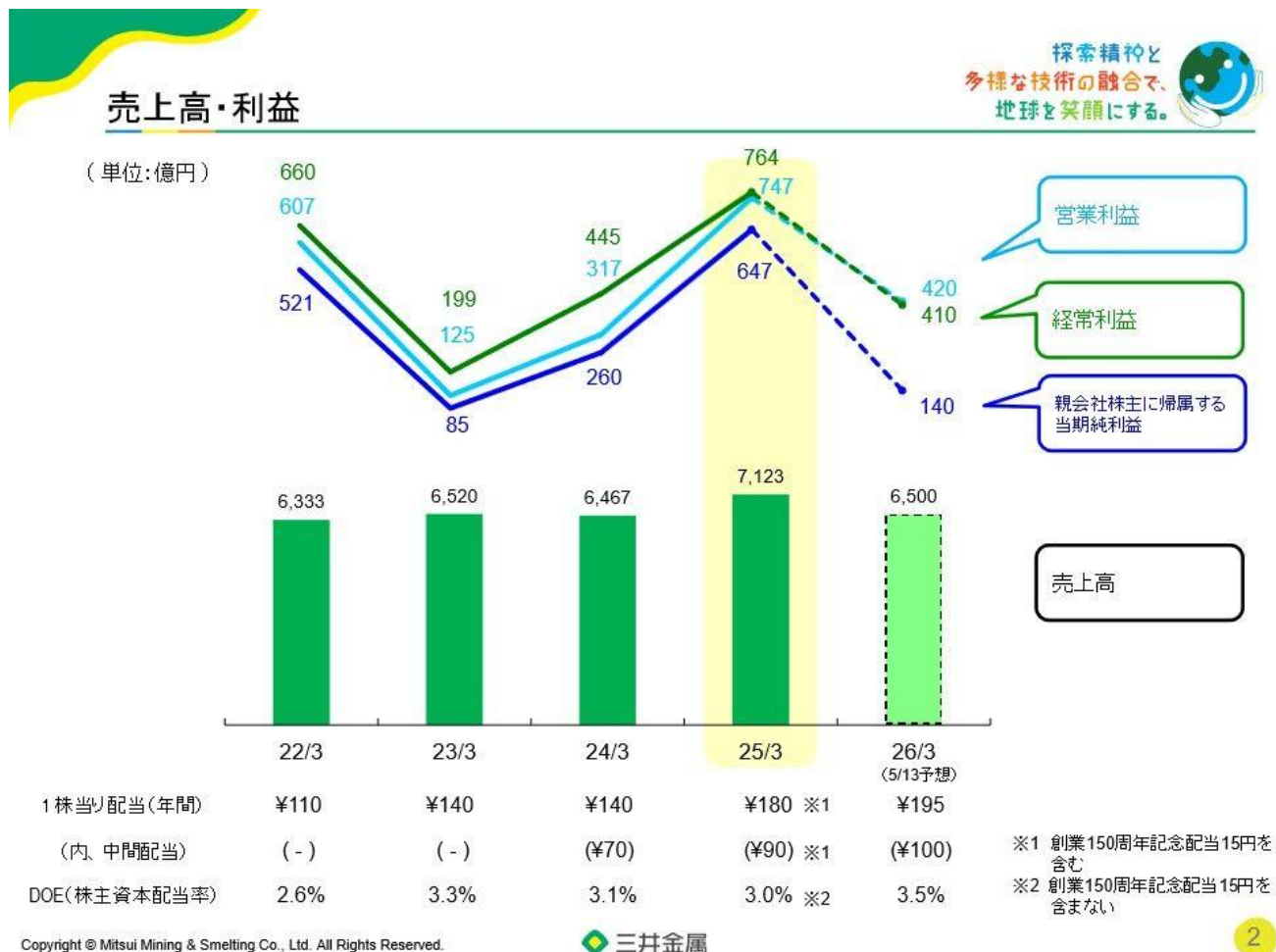
決算説明資料 1 ページをご覧ください。

・2025 年 3 月期の連結売上高は 7,123 億円、営業利益は 747 億円、経常利益は 764 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 647 億円となりました。これは 22 中計最終年度の目標を達成するとともに、売上高、利益とも過去最高となりました。

・前年比では、機能材料セグメントの主要製品の販売量は増加し、金属価格の上昇、為替の円安などにより売上高は 656 億円増加となりました。利益についても、金属価格や為替の要因に加えて在庫要因の好転などにより、営業利益は 430 億円増加、経常利益は 319 億円増加。加えて、特別損益として政策保有株式や関係会社株式の売却益などにより、親会社に帰属する当期純利益は 387 億円増加しました。

・2026 年 3 月期の連結業績予想は、売上高 6,500 億円、営業利益 420 億円、経常利益 410 億円、当期純利益 140 億円と、前年比で減収減益を見込んでおります。なお、本日開示しました三井金属アクト株式

会社の株式譲渡による減収、および特別損失 197 億円を織り込んでおります。諸元につきましては、LME 亜鉛価格 2,800ドル、LME 鉛価格 1,900ドル、LME 銅価格 417 セント、為替は 145 円を前提としております。

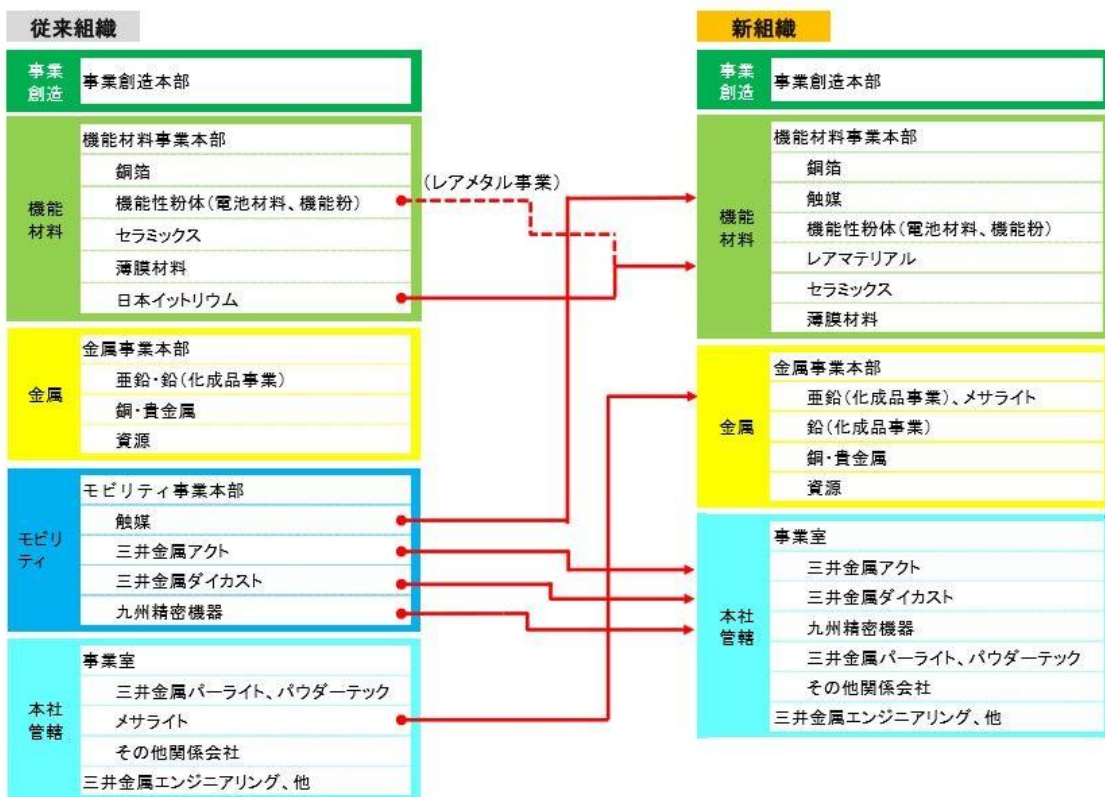


決算資料 2 ページをご覧ください。

・2025 年 3 月期につきましては、既に実施しました中間配当では、記念配当 15 円を含む 1 株当たり 90 円、これに期末配当として 90 円、DOE3.0%ベースで年間 180 円とし、前回 2 月に公表しました配当予想 165 円から 15 円増配いたしました。

・2026 年 3 月期につきましては、本日開示しました配当方針の変更に関するお知らせのとおり、配当方針 DOE3.0%から 3.5%をめどといたします。これにより中間配当は 1 株当たり 100 円、期末配当 95 円、年間 195 円と、24 年度比で 15 円増配を予定しております。

組織改編(2025年4月1日以降)



Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

三井金属

3

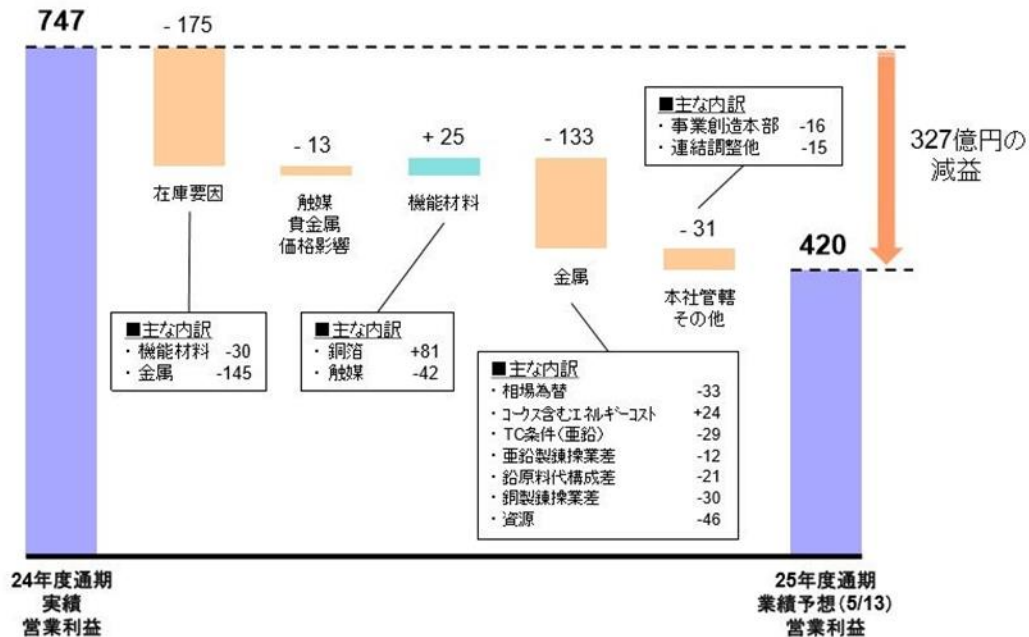
資料 3 ページをご覧ください。25 年 4 月以降の組織について、簡単にご説明いたします。

・大きな変更点としましては、左側の従来組織にありましたモビリティセグメントを廃止し、新組織では触媒事業を機能材料セグメントに移管し、三井金属アクトなど、触媒以外のモビリティセグメントの事業を本社事業室に移管しております。

25年度営業利益(対前年度実績)

25年度営業利益は420億円と対前年度比で327億円の減益を見込む

(単位:億円)



Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

三井金属

6

続きまして、資料 6 ページをご覧ください。

・25年度の営業利益は420億円と、24年度実績747億円から327億円の減益を見込んでおります。そのうち、為替の円高や金属価格の下落に伴う在庫要因で175億円の悪化、さらに金属事業において相場悪化に伴う事業損益や亜鉛TC悪化などもあり、このセグメントで133億円の悪化。大きくはこの二つで308億円の悪化を見込んでおります。

・機能材料セグメントでは、銅箔の主力商品であるMicroThin™の増販や値上げ効果などにより81億円の増益となるものの、触媒の販売量減少による42億円の減益などにより、機能材料セグメントでは25億円の増益にとどまっております。

・右のほうの本社管轄その他では、事業創造本部にて費用の増加がサンプル収入の増加を上回ることから16億円の悪化。連結調整のうち、円高による海外子会社の財務諸表の為替換算差を主要因として15億円の悪化。トータルで31億円の悪化を見込んでおります。これらの要因を織り込み、2025年度の業績予想では前年比327億円減少の420億円を見込んでおります。

セグメントの業績(1) 機能材料



(単位:億円)

従来組織

	2024 実績	2023 実績	増減 (24-23)
■売上高	1,535	1,241	294
■営業利益	255	154	101
■経常利益	252	164	88
※実力損益	221	148	73

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

新組織

	FY2025 今回予想	2024 実績	増減 (25-24)	上2025 今回予想	下2025 今回予想
■売上高	2,650	2,462	188	1,350	1,300
■営業利益	400	418	-18	215	185
■経常利益	395	403	-8	215	180
※実力損益	394	359	35	214	180

※実力損益：経常利益から在庫要因・触媒貴金属価格影響を除いたもの

機能材料製品	主な用途
銅箔	・高密度半導体パッケージ材料 ・プリント配線基板
触媒 (2025/4/1~)	・二輪車・四輪車排ガス浄化触媒
機能性粉体 (電池材料)	・ハイブリッド車向けニッケル水素電池 ・リチウムイオン電池
機能性粉体 (機能粉)	・各種電子部品
レアメタリアル	・ガラス研磨材 ・半導体製造装置向け保護材
セラミックス	・高温用窯道具、電子部品用窯道具 ・溶融アルミニウム濾過装置
薄膜材料	・フラットパネルディスプレイ

経常利益の増減説明

[FY2023→FY2024 + 88]

銅箔 +56 (MicroThin™・VSP™増販 他)
機能粉 +21 (主要製品増販 他)

[FY2024→FY2025予想 - 8]

銅箔 +84 (MicroThin™増販、主要製品販売価格は正 他)
触媒 -44 (減販 他)
薄膜 -28 (在庫要因悪化 他)

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



16

それではセグメントごとの状況についてご説明いたします

最初に、機能材料セグメントです。資料 16 ページをご覧ください。

・機能材料については、右下に記載のとおり、銅箔事業が 2023 年から 24 年、25 年と回復、成長していく見通しでございます。MicroThin™の販売増や値上げ効果、ハイグレード VSP™増加によるミックス改善などにより、25 年以降も中期的に成長が見込めると考えております。

・銅箔以外の事業につきましては、25 年度は触媒の減販やその他事業でのコストアップなどにより軒並み前年比で減益と見ておりますが、右の真ん中くらいに実力損益という数字がございまして、こちらは経常利益から在庫要因や触媒の貴金属価格影響を除いたものになりますが、こちらが 25 年度 394 億円ということで、前年比で増益と見ております。

セグメントの業績(2) 金属



(単位:億円)

従来組織

	2024 実績	2023 実績	増減 (24-23)
■売上高	2,948	2,468	480
■営業利益	417	64	353
■経常利益	445	161	284
※実力損益	319	157	162

※実力損益：経常利益から在庫要因を除いたもの

新組織

	FY2025 今回予想	2024 実績	増減 (25-24)	上2025 今回予想	下2025 今回予想
■売上高	3,050	3,264	-214	1,570	1,480
■営業利益	140	418	-278	75	65
■経常利益	120	445	-325	70	50
※実力損益	139	319	-180	86	53

経常利益増減分析

	FY2023→ FY2024	FY2024→ FY2025予想
相場・為替	73	-33
T/C条件(亜鉛)	-40	-29
たな資産在庫要因	122	-145
持分法損益	10	-31
エネルギーコスト (上記のうち、コークス)	53 (10)	24 (8)
受取配当金	-68	0
その他※	134	-111
合計	284	-325

2025年度年間損益感応度(経常損益)

	フルオープン	予約含む
亜鉛(LME)	± 100\$/t	15.8
鉛(LME)	± 100\$/t	2.1
為替	± 1yen/\$	5.1

亜鉛TC条件

FY2023	274 \$/t	・3,000\$/t以上で+6%
FY2024	165 \$/t	
FY2025	80 \$/t	

※その他の主な内訳

FY2023→ FY2024	亜鉛製錬操業差 +12、鉛操業差 +9、鉛原料代構成差 +7、 亜鉛・鉛固定費(大定修+15含む) -2、銅製錬操業差 +51、 銅製錬コスト(大定修-24含む) -19、PGMリサイクル +10、資源 +40
FY2024→ FY2025予想	亜鉛製錬操業差 -12、鉛操業差 -9、鉛原料代構成差 -21、 亜鉛・鉛固定費 -1、銅製錬操業差 -30、銅製錬委託条件差 -23、 銅製錬コスト(大定修+24含む) +27、PGMリサイクル -7、資源 -46

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.



17

続きまして、金属セグメントです。17 ページをご覧ください。

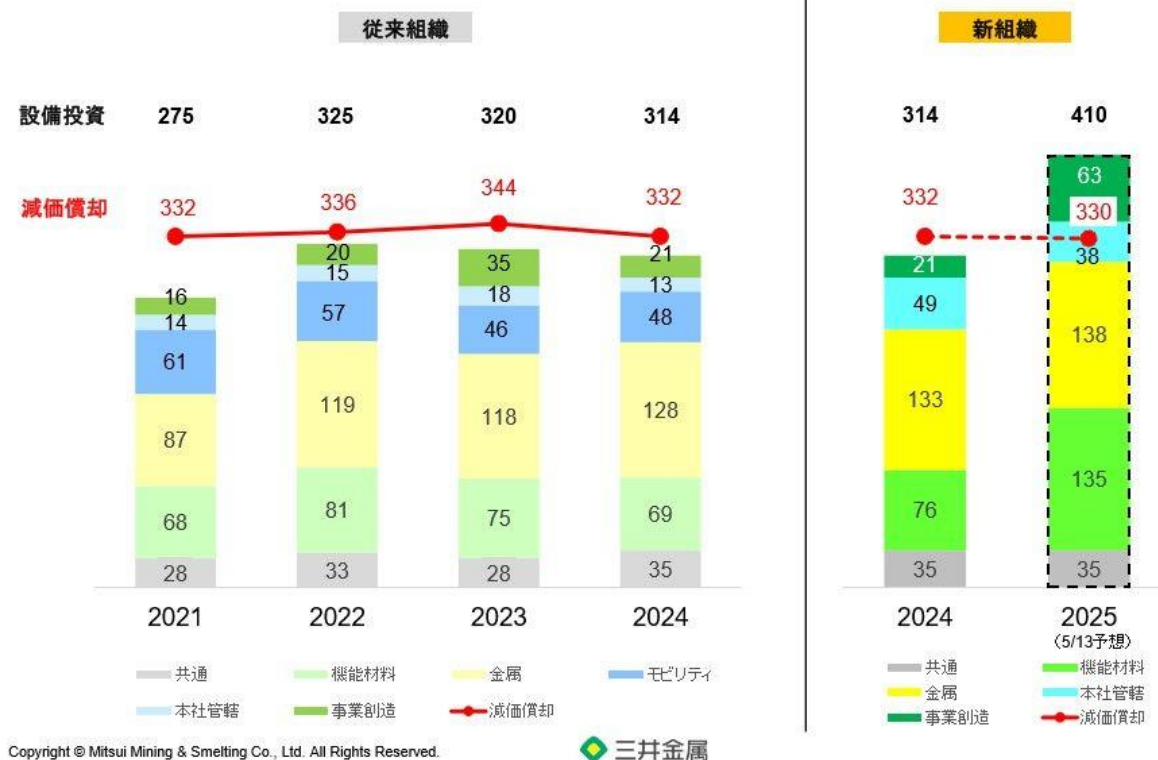
・足元の状況としましては、亜鉛価格が低迷している中で、為替がやや円高で推移し、亜鉛 TC や銅の TC/RC が大幅に悪化している、厳しい環境でございます。そのような中で 25 年度は実力損益が 139 億円ということで、前年比 180 億円の減少を見込んでおります。

・金属事業の成長戦略として、鉛濃縮残渣などリサイクル原料の処理量アップに努めてまいります。現時点で金属事業の実力損益としてはだいたい 100 億から 200 億の水準であろうと考えております。

設備投資・減価償却

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

(単位:億円)



19

設備投資についてご説明いたします。資料 19 ページをご覧ください。

・25 年度は、一番右側にあります通り、設備投資 410 億円ということで、近年でも高水準の設備投資を予定しております。当社の価値の拡大事業である機能材料セグメント、その中でも銅箔、機能性粉体、レアマテリアルなどの事業や、価値の育成と位置付けている新規事業創出の事業創造本部の設備投資。具体的には、全固体電池用の固体電解質や HRDP®などの成長投資を積極的に行ってまいります。

財政状態

探索精錬と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。

(単位:億円)



*Net 有利子負債/自己資本

Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

三井金属

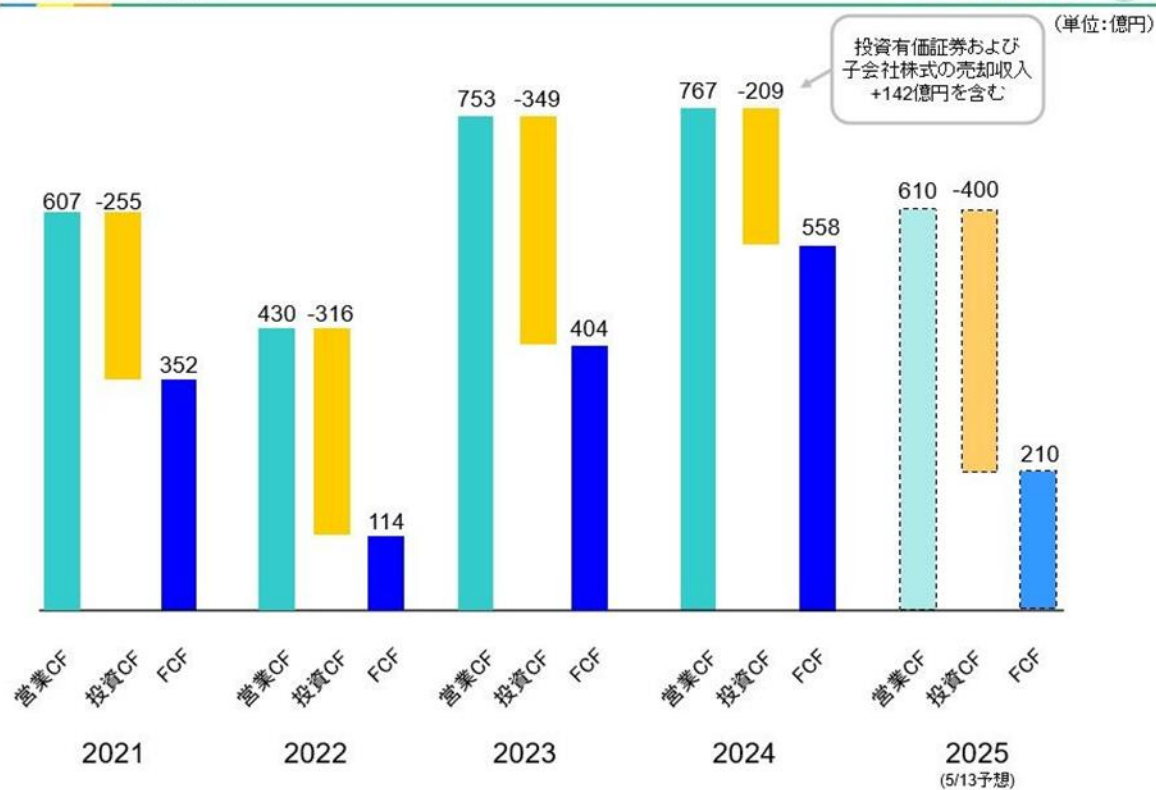
20

財政状態についてご説明いたします。20 ページをご覧ください。

・25 年 3 月期は過去最高益ということもあり、自己資本比率 50.4%と、2022 年からの中期計画の目標値の 50%を達成しました。

キャッシュフロー

探索精神と
多様な技術の融合で、
地球を笑顔にする。



Copyright © Mitsui Mining & Smelting Co., Ltd. All Rights Reserved.

三井金属

21

最後に、キャッシュフローでございます。資料 21 ページをご覧ください。

・25 年度について、当社にとっては高水準の投資キャッシュフロー400 億円を見込んでおります。三井金属アクト株式会社の株式譲渡に伴い特別損失を計上しておりますが、キャッシュフローではプラスに効いており、フリーキャッシュフロー210 億円を見込んでおります。

■ 質疑応答

【機能材料セグメント】

Q. 決算説明資料 P.13 について、MicroThin™の PKG 向けと二輪触媒の 2025 年度予想の背景と、VSP™の直近動向など解説いただきたい。

A. MicroThin™の PKG 向けは、2024 年度第 4 四半期に起きた韓国のお客様のメモリ関連の在庫調整による減販が 3 月頃におおよそ終わり稼動が上がってきている。足元 4 月、5 月の当社受注状況は急激な数量増となっており、ほぼ見込んだ水準の販売量を達成する見通しで、この勢いは上期いっぱい続くと見ている。

VSP™の 2024 年度実績は前回予想と比較して若干減販となったが、第 3 四半期から第 4 四半期にかけて数量は伸びており、今後 2025 年度もしっかり伸びていくと見ている。

二輪触媒は、インド減販の影響が一番大きい。インドにおける二輪触媒の市場動向は足元まで好調が続いており、市況は今後も好調をある程度維持すると見ているが、競合との競争激化は継続しておりシェア減少を織り込んでいる。なお、上期に対し下期で減販としている理由はディワリ商戦による季節性の影響であり、これは例年同様である。

Q. MicroThin™の PKG 向けについて、スマホ向けの増加と、メモリ需要の増加に伴う非スマホ向けの増加の割合の変化を 2025 年度予想ではどう見込んでいるのか解説いただきたい。

A. 非スマホのメモリ関連の伸びが我々の需要を牽引するという見方は変わっていない。2024 年度第 4 四半期でメモリ関連の在庫調整が終わり動き出したので、さらに順調に伸びていくことを期待しており、足元ではしっかり数量が出ている。受注急増はスマホ向け・非スマホ向けの両方が増えていると見ている。

Q. MicroThin™の PKG 向けの 2025 年度予想について、上期に対し下期が減販する背景を解説いただきたい。

A. 減販する背景は季節性要因である。ある程度上期に作り溜めし、下期に少し一服することを見込んでいた。昨年は需要の回復途上ということもあり右肩上がりの増販が続くという見方をしていたが、足元需要が回復し今後拡大基調になる中で、上下の季節性を今回は織り込んでいる。

Q. MicroThin™について、2025 年度予想にマージンをどう織り込んでいるのか。

A. MicroThin™が 2024 年度に取り組んだ価格是正は下期から貢献し、2024 年度から 2025 年度にかけて価格是正がマージンの好転に寄与している。特に上期同士を比較すると、24 年度上期はまだ価格是正前のため、増販も含めて損益への好転を見込んでおり、コスト増に伴ってお客様に価格是正をお願いした部分ではあるが、前年比で 20 億以上の利益寄与を見込んでいる。

Q. MicroThin™の伸びについて、新たな用途の拡大より、足元はお客様の在庫の変動が大きく影響しているのか。

A. 新たな用途も好調だがまだ規模が小さく、お客様の在庫の変動の影響が大きい。

Q. 電解銅箔について、フレキ向けや通信インフラ向けなどの足元の状況と今後の見通しを教えてください。

A. 電解銅箔の市況について、足元では、我々は AI サーバーなどのハイエンドな通信インフラ向けの製品である VSP™に注力していることもあり、フレキ向け、あるいはローエンド、ミドルレンジの通信インフラ向けの受注を積極的に、価格を下げてまで注文を取りに行く動きはしておらず、そのためフレキや通信インフラの市況の当社販売量への影響は少し小さくなっている。全体的な電解銅箔の市況に好不調の大きな動きはないが、当社のフレキについては 2024 年度第 4 四半期に季節性要因で少し下がったものの、2025 年度に向けてスマホ向けで数量が増えていくと見込んでいる。通信インフラについては、足元のサーバー市場は活況であり販売量は堅調に出ている。

Q. VSP™について、2023 年度から 2024 年度と 2024 年度から 2025 年度にかけての数量効果を定量的に教えてください。

A. VSP™の数量効果について、当社は電解銅箔として合算した販売数量増や販売単価好転を分析しており、VSP™単独の増販益のような分析はしていない。電解銅箔の販売量が少しずつ伸びていく中で VSP™は顕著に数量が伸びていく状況にあり、電解銅箔平均の販売単価、ミックスの改善はかなり大きい数

字として出てきている。電解銅箔トータルでの平均のミックスの改善による利益好転は、2023 年度から 2024 年度にかけて 20 億円に少し届かないくらいの効果が出ている。2024 年度から 2025 年度にかけてさらにミックスの改善が進み、20 億円から 30 億円くらいの効果を見込んでいる。

【金属セグメント】

Q. P.17 の金属セグメントについて、経常利益増減分析のその他の金額が大きい背景を解説いただきたい。

A. 銅製錬操業差の 2024 年度実績プラス 51 億円と 2025 年度予想のマイナス 30 億円については、電気銅の生産の影響と実収差量が要因となっている。足元で銅・金・銀の建値や為替が上昇しているため実収差量の単価も上昇し、数量の変動で金額が大きく出ることになる。2024 年度実績では銅製錬の操業は実収差量も含めて好調であったが、2025 年度は 2024 年度実績で上振れた部分を外して見ている。

Q. P.17 の金属セグメントの 2024 年度から 2025 年度の経常利益増減について、銅の TC/RC 悪化影響額は銅製錬委託条件差のマイナス 23 億円か。また、実収差を見込んでいないことによる悪化影響額は銅製錬操業差のマイナス 30 億円か。それ以外に、鉛原料代構成差マイナス 21 億円と資源マイナス 46 億円について、どういった内容なのか教えていただきたい。

A. 銅の TC/RC 悪化影響額について、鉱石の TC/RC 悪化は当社の持分法適用会社であるパンパシフィック・カッパーの損益に影響し、資料に記載している持分法損益でのマイナス 31 億円の内数になる。実収差の影響額は銅製錬操業差マイナス 30 億円の内数になる。鉛原料代構成差マイナス 21 億円について、鉱滓類やバッテリースクラップではない残渣的な鉛の原料の調達条件を保守的に見たことによる悪化を見込んでいる。資源のマイナス 46 億円について、探鉱費の増加が 15 億円強あり、現在の鉱区の周辺にあるアタラヤ鉱区を 2030 年ぐらいまでに新規操業することを目指して開発を進めている。あとは操業とコスト、亜鉛相場の部分で減益を見込んでいる。

【事業創造本部】

Q. 事業創造本部の 2025 年度予想は、2024 年度対比でマイナス幅拡大を織り込んでいるが、HRDP®や全固体電池向け固体電解質の動きについて、どういう変化を想定しているか解説いただきたい。

A. HRDP®や固体電解質では、それぞれサンプル収入が増え、発生するコストも増えるの見込んでおり、それらを相殺するとそれほど大きく悪化していない。一方で、他のテーマも積極的に取り組んでいることによるコスト増を現時点では 2025 年度に織り込んでいる。

【全社】

Q. アクトの株式譲渡について、なかなか手放すのは難しいような話があったが、今回の株式譲渡において何かプラスアルファの話はあるか。

A. 株式譲渡については、相手がいるということもあり譲渡先を見つけることが進んでいなかったが、それでも当社としては水面下でベストオーナーの探索として譲渡先を見つける努力を継続し、今回開示したとおりベストオーナーが見つかったと当社では判断し、譲渡に至った。

Q. 配当方針を 3.0%から 3.5%に引き上げた背景を教えてください。

A. 当社は財務体質の改善に伴って配当方針等、株主還元の見直しを行うことを以前からお話しており、中期計画の最終年度の 2024 年度に自己資本比率 50%を達成したことで、当社としては財務の健全性を十分に確保できたと判断し、配当方針の DOE を見直し 3.5%に引き上げた。

以上